

対象校No. 524

注4

学校コード F121310106089

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

認可

注2

岐阜医療科学大学

薬学部

薬学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人神野学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 総務部庶務課

職名・氏名 カカリチヨウラ リ サ
係長・原 理沙

電話番号 0574-65-6555 (内線: 1007)

(夜間) 0574-65-6555 (内線: 1007)

e-mail gumsjc@u-gifu-ms.ac.jp

目次

薬学部

＜薬学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	23
4. 既設大学等の状況	24
5. 教員組織の状況	25
6. 附帯事項等に対する履行状況等	36
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人神野学園

(2) 大 学 名

岐阜医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

(薬学部：可児キャンパス)

〒509-0293

岐阜県可児市虹ヶ丘4-3-3

(大学本部：関キャンパス)

〒501-3892

岐阜県関市市平賀字長峰795-1

(法人本部の位置)

〒461-0001

愛知県名古屋市中区泉1丁目23番37号

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ヤマダ ヒロユキ) 山田 弘幸 (平成26年4月1日)		
学 長	(ヤマオカ カズキヨ) 山岡 一清 (令和元年4月1日)		
学 部 長	(ナガセ ヒサミツ) 永瀬 久光 (令和2年4月1日)		
学科長等	(ウノ ブンジ) 宇野 文二 (令和2年4月1日)		

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合には、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
薬学部 薬学科 学士(薬学)	薬学関係	6 年	100 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	600 人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	100人 — (—) [—]	0人 — (—) [—]	—			
志願者数	271 (—) [—]	— (—) [—]	460 (—) [—]	— (—) [—]	376 (—) [—]	— (—) [—]	334 (—) [—]	— (—) [—]	320 (—) [—]	— (—) [—]	294 (—) [5]	— (—) [—]		0.74倍	—	
受験者数	261 (—) [—]	— (—) [—]	448 (—) [—]	— (—) [—]	372 (—) [—]	— (—) [—]	329 (—) [—]	— (—) [—]	318 (—) [—]	— (—) [—]	287 (—) [5]	— (—) [—]				
合格者数	205 (—) [—]	— (—) [—]	364 (—) [—]	— (—) [—]	280 (—) [—]	— (—) [—]	303 (—) [—]	— (—) [—]	289 (—) [—]	— (—) [—]	261 (—) [1]	— (—) [—]				
B 入学者数	79 (—) [—]	— (—) [—]	78 (—) [—]	— (—) [—]	84 (—) [—]	— (—) [—]	74 (—) [—]	— (—) [—]	87 (—) [—]	— (—) [—]	86 (—) [1]	— (—) [—]				
入学定員超過率 B/A	0.79		0.78		0.84		0.74		0.87		0.86					

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。
該当がない年度には「-」を記入してください。
・転入学生は記入しないでください。
・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。
春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から計算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	78 [-] (-)	- [-] (-)	69 [-] (-)	- [-] (-)	83 [-] (1)	- [-] (-)	74 [-] (2)	- [-] (-)	82 [-] (2)	- [-] (-)	88 [1] (2)	- [-] (-)	
2 年次			77 [-] (-)	- [-] (-)	66 [-] (3)	- [-] (-)	78 [-] (3)	- [-] (-)	72 [-] (5)	- [-] (-)	80 [-] (3)	- [-] (-)	
3 年次					72 [-] (-)	- [-] (-)	60 [-] (2)	- [-] (-)	74 [-] (3)	- [-] (-)	73 [-] (6)	- [-] (-)	
4 年次							69 [-] (0)	- [-] (-)	57 [-] (3)	- [-] (-)	76 [-] (7)	- [-] (-)	
5 年次									64 [-] (0)	- [] ()	57 [-] (6)	- [] ()	
6 年次											64 [-] (0)	- [] ()	
計	78 [-] (-)		146 [-] (-)		221 [-] (4)		281 [-] (7)		349 [-] (13)		438 [1] (18)		

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留學生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	78 人	1 人	令和2年度	1 人	0 人	修学意欲の低下(1人)
令和3年度	146 人	7 人	令和2年度	1 人	0 人	他教育機関へ進路変更(1人)
			令和3年度	6 人	0 人	他教育機関へ進路変更(2人)、除籍(2人)、学力不足(1人)、疾病・治療(1人)
令和4年度	221 人	8 人	令和2年度	1 人	0 人	疾病・治療(1名)
			令和3年度	5 人	0 人	他教育機関へ進路変更(2人)、除籍(2人)、就学意欲の低下(1人)
			令和4年度	2 人	0 人	経済的理由(1人)、就学意欲の低下(1人)
令和5年度	281 人	8 人	令和2年度	1 人	0 人	他教育機関へ進路変更(1人)
			令和3年度	4 人	0 人	除籍(2名)、他教育機関へ進路変更(2人)
			令和4年度	2 人	0 人	他教育機関へ進路変更(2人)
			令和5年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1名)
令和6年度	349 人	15 人	令和2年度	1 人	0 人	除籍(1名)
			令和3年度	3 人	0 人	他教育機関へ進路変更(1人)、就学意欲の低下(1人)、疾病・治療(1人)
			令和4年度	3 人	0 人	他教育機関へ進路変更(2人)、就学意欲の低下(1人)
			令和5年度	2 人	0 人	他教育機関へ進路変更(1人)、就学意欲の低下(1人)
			令和6年度	6 人	0 人	他教育機関へ進路変更(3人)、就学意欲の低下(3人)
令和7年度	438 人	0 人	令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		39 人		39 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例) ・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{1}{79} = \boxed{1.26} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{7}{153} = \boxed{4.57} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{8}{229} = \boxed{3.49} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{8}{289} = \boxed{2.76} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{15}{364} = \boxed{4.12} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{438} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<薬学部 薬学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1			1		
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼2
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1	
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5			1	4	1			兼2
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5								兼2
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5								兼2
	アカデミック技法	1後	0.5			1					
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
薬学基本科目	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計 (30科目)	—	16	10.5	0	7	6	2	1	1	兼19
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼4
	医学概論	1前	1			3					
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
薬学専門基礎科目	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
	地域診療薬学	2前	1.5			1	1				兼1
	薬局経営論	6前		1							兼3
	実践社会薬学	6後	1								兼8
	小計 (15科目)	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼15
	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1		
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
薬学専門基礎科目	物理系実習	2後	1			2			1	1	
	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1				
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1					兼1
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					兼1
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼1
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	2		1	兼1
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5			1	4	1			兼7
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5								兼2
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5								兼2
	アカデミック技法	1後	0.5				1				
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
薬学基本科目	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計 (30科目)	—	16	10.5	0	7	7	3		1	兼27
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼1
	医学概論	1前	1			3					兼4
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
薬学専門基礎科目	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
	地域診療薬学	2前	1.5				1	1			兼1
	薬局経営論	6前		1							兼5
	実践社会薬学	6後	1								兼7
	小計 (15科目)	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼19
	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1		
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
薬学専門基礎科目	物理系実習	2後	1			2				1	
	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1				
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学専門基礎科目	化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
	化学系薬学演習	3前	1			1	1		1	1	
	生薬学	1後	1.5			1					
	天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
	薬用植物学	1前	1.5			1					
	生薬学実習	2前	1			1			1	1	
	生薬学演習	2前	1			1			1		
	機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
	生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
	分子生物学	2前	1.5			2					
	細胞生物学	2後	1.5			1					
	微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
	微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
	免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
	免疫学Ⅱ	2後	1				1				
	生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
	生物系薬学演習	2後	1			3	2				
	小計（34科目）	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1				兼任1
	食品化学と健康	2後	1.5			1					
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1					
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1			兼任1
	サプリメント概論	6前	1.5			1					
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1			
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1				
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1				
	薬理系実習	3前	1			1	1	1		1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1			
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5				1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5				1				
	薬物動態学実習	3後	1				1			2	
	薬物動態学演習	4前	1				1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1				
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2				
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1			
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3				
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1			
	医薬品情報学	3後	1.5				2				
	臨床統計解析学	3後	1.5								兼任1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2				
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1					
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1					
	症候学	6前	1.5			3	2				
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2				
	漢方の基礎	3前	1				1				
	漢方薬学	3後	1.5								兼任1
	放射線検査医学総論	3前	1.5								兼任7
	臨床検査医学総論	3後	1.5								兼任1
	病態情報解析学	4前	1			1					
	処方解析演習	6前	1			2	2				
	香粧品学	6前		1							兼任1
	鍼灸治療論	6前		1			1				
	創薬化学特論	6前		1							兼任1
	医薬品開発概論	6前		1							兼任1
	地域健康サポート演習	4前	1			2					兼任1
	医薬品副作用学	6前		1.5							兼任1

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学専門基礎科目	化学系実習	3前	1			1	1			1	兼任1
	化学系薬学演習	3前	1			1	1				兼任1
	生薬学	1後	1.5			1					
	天然物薬品化学	3前	1.5			1		1			
	薬用植物学	1前	1.5			1					
	生薬学実習	2前	1			1		1		1	
	生薬学演習	2前	1			1		1			
	機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
	生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
	分子生物学	2前	1.5			2					
	細胞生物学	2後	1.5			1					
	微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
	微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
	免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
	免疫学Ⅱ	2後	1				1				
	生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
	生物系薬学演習	2後	1			3	2				
	小計（34科目）	—	45.5	0	0	7	4	2	1	3	兼任1
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1				兼任1
	食品化学と健康	2後	1.5			1					
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1					
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1			兼任1
	サプリメント概論	6前	1.5			1					
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1			
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1				
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1				
	薬理系実習	3前	1			2	1			1	
	薬理系薬学演習	3後	1			2	1				
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5				1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5				1				
	薬物動態学実習	3後	1				1			2	
	薬物動態学演習	4前	1				1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1				
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2				
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			2	1				
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3				
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1			
	医薬品情報学	3後	1.5				2				
	臨床統計解析学	3後	1.5								兼任1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2				
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1					
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1					
	症候学	6前	1.5			3	2				
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2				
	漢方の基礎	3前	1				1				
	漢方薬学	3後	1.5								兼任2
	放射線検査医学総論	3前	1.5								兼任7
	臨床検査医学総論	3後	1.5								兼任1
	病態情報解析学	4前	1			1					
	処方解析演習	6前	1			2	2				
	香粧品学	6前		1							兼任2
	鍼灸治療論	6前		1			1				
	創薬化学特論	6前		1							兼任1
	医薬品開発概論	6前		1							兼任1
	地域健康サポート	4前	1				2				兼任1
	医薬品副作用学	6前		1.5							兼任1

【認可時又は届出時】

授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
		必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼9
救急処置法	1前	1			1	2	1			
フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
チーム医療演習	6前	1			2	1				
実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
病院実務実習	5通	10			4	2	1			
臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			兼2
在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				
災害薬学	6前		1							兼2
総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				兼24
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24
合計(144科目)	—	177.0	8	0.0	16	10	5	3	3	兼54
卒業要件及び履修方法										
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位、薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。（履修科目の上限：46単位（年間））										

【令和7年度】

授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
		必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼8
救急処置法	1前	1			1	2	1			
フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
チーム医療演習	6前	1			3	1				
実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
病院実務実習	5通	10			4	2	1			
臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			兼2
在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				
災害薬学	6前		1							兼3
総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				兼28
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	16	8	2		3	兼28
合計(144科目)	—	177.0	19.5	0.0	17	10	5	1	3	兼69
卒業要件及び履修方法										
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位、薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。（履修科目の上限：46単位（年間））										

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1			1		
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼1
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1	
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5			1	4	1			兼6
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5								兼2
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5								
	アカデミック技法	1後	0.5				1				
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計（30科目）	—	16	10.5	0	7	6	2	1	1	兼25
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼4
	医学概論	1前	1			3					
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
	地域診療薬学	2前	1.5				1	1			兼1
	薬局経営論	6前		1							兼3
	実践社会薬学	6後	1								兼8
	小計（15科目）	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼17
薬学専門基礎科目	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1		
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
	物理系実習	2後	1			2			1	1	
	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5					1			
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1			1		
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					兼1
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼1
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1	
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5			1	4	1			兼5
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5								兼3
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5								
	アカデミック技法	1後	0.5				1				
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計（30科目）	—	16	10.5	0	5	6	2	1	1	兼30
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼1
	医学概論	1前	1			3					兼4
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
	地域診療薬学	2前	1.5				1	1			兼1
	薬局経営論	6前		1							兼3
	実践社会薬学	6後	1								兼8
	小計（15科目）	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼15
薬学専門基礎科目	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1		
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
	物理系実習	2後	1			2			1	1	
	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1				
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学専門基礎科目	化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
	化学系薬学演習	3前	1			1	1		1		
	生薬学	1後	1.5			1					
	天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
	薬用植物学	1前	1.5			1					
	生薬学実習	2前	1			1			1	1	
	生薬学演習	2前	1			1			1		
	機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
	生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
	分子生物学	2前	1.5			2					
	細胞生物学	2後	1.5			1					
	微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
	微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
	免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
	免疫学Ⅱ	2後	1				1				
	生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
	生物系薬学演習	2後	1			3	2				
	小計(34科目)	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1				
	食品化学と健康	2後	1.5			1					兼1
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1					
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1			兼1
	サプリメント概論	6前		1.5		1					
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1			
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1				
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1				
	薬理系実習	3前	1			1	1	1		1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1			
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5				1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5				1				
	薬物動態学実習	3後	1				1			2	
	薬物動態学演習	4前	1				1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1				
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2				
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1			
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3				
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1			
	医薬品情報学	3後	1.5				2				
	臨床統計解析学	3後	1.5								兼1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2				
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1					
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1					
	症候学	6前	1.5			3	2				
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2				
	漢方の基礎	3前	1				1				
	漢方薬学	3後	1.5								兼1
	放射線検査医学総論	3前	1.5								兼7
	臨床検査医学総論	3後	1.5								兼1
	病態情報解析学	4前	1			1					
	処方解析演習	6前	1			2	2				
	香粧品学	6前		1							兼1
	鍼灸治療論	6前		1			1				
	創薬化学特論	6前		1							兼1
	医薬品開発概論	6前		1							兼1
	地域健康サポート演習	4前	1			2					兼1
	医薬品副作用学	6前		1.5							兼1

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
薬学専門基礎科目	化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
	化学系薬学演習	3前	1			1	1		1		
	生薬学	1後	1.5			1					
	天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
	薬用植物学	1前	1.5			1					
	生薬学実習	2前	1			1			1	1	
	生薬学演習	2前	1			1			1		
	機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
	生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
	分子生物学	2前	1.5			2					
	細胞生物学	2後	1.5			1					
	微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
	微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
	免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
	免疫学Ⅱ	2後	1				1				
	生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
	生物系薬学演習	2後	1			3	2				
	小計(34科目)	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1				
	食品化学と健康	2後	1.5			1					兼1
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1					
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1			兼1
	サプリメント概論	6前		1.5		1					
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1			
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1				
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1				
	薬理系実習	3前	1			1	1	1		1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1			
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5				1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5				1				
	薬物動態学実習	3後	1				1			2	
	薬物動態学演習	4前	1				1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1				
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2				
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1			
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3				
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1			
	医薬品情報学	3後	1.5				2				
	臨床統計解析学	3後	1.5								兼1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2				
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1					
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1					
	症候学	6前	1.5			3	2				
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2				
	漢方の基礎	3前	1				1				
	漢方薬学	3後	1.5								兼1
	放射線検査医学総論	3前	1.5								兼7
	臨床検査医学総論	3後	1.5								兼1
	病態情報解析学	4前	1			1					
	処方解析演習	6前	1			2	2				
	香粧品学	6前		1							兼1
	鍼灸治療論	6前		1			1				
	創薬化学特論	6前		1							兼1
	医薬品開発概論	6前		1							兼1
	地域健康サポート演習	4前	1			2					兼1
	医薬品副作用学	6前		1.5							兼1

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
薬学専門科目	早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼8
	救急処置法	1前	1			1					
	フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
	フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
	チーム医療演習	6前	1			2	1				
	実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
	実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
	薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
	病院実務実習	5通	10			4	2	1			
	臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			
	在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				兼2
	災害薬学	6前		1							兼2
	総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
	総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
	総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
	総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
	総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2					
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2					
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2					
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24	
（144科目）	—	99.5	9	0.0	16	10	5	3	3	兼63	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位・薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。 （履修科目の上限：46単位（年間））											

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
薬学専門科目	早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼9
	救急処置法	1前	1			1					
	フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
	フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
	チーム医療演習	6前	1			2	1				
	実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
	実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
	薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
	病院実務実習	5通	10			4	2	1			
	臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			
	在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				兼2 兼2
	災害薬学	6前		1							
	総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
	総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
	総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
	総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
	総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				
	特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				
	特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
	特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24	
合計（144科目）		—	177.0	19.5	0.0	16	10	5	3	3	兼54
卒業要件及び履修方法											
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位・薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。 （履修科目の上限：46単位（年間））											

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1			1		
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼2
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1	
	アカデミック基礎セミナー コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	1前	0.5			1	4	1			
		2後	0.5								兼2
		3後	0.5								兼2
	アカデミック技法	1後	0.5				1				
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
薬学基本科目	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計（30科目）	—	16	10.5	0	5	6	2	1	1	兼30
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼1
	医学概論	1前	1			3					兼4
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
薬学専門基礎科目	地域診療薬学	2前	1.5			1	1				兼1
	薬局経営論	6前		1							兼3
	実践社会薬学	6後	1								兼8
	小計（15科目）	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼15
	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1			1		
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
	物理系実習	2後	1			2			1	1	
薬学専門基礎科目	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1				
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
薬学準備科目	化学	1前	1			1			1		
	物理学	1前	1			1					
	生物学	1前	1			1					
	数学	1前	1								兼1
	情報処理	1前	1								兼2
	統計学	1後	1								兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1	
	アカデミック基礎セミナー コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	1前	0.5			1	4	1			
		2後	0.5								兼2
		3後	0.5								兼2
	アカデミック技法	1後	0.5				1				
	ボランティア技法	1前		0.5							兼1
	手話技法	2前		0.5							兼1
	心理学	2前		1							兼1
	社会慣習・マナー技法	1前		0.5							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	経済学	2前		1							兼1
	法学	2前		1							兼1
	教育学	1後		1							兼1
	健康スポーツ実技	1前	1								兼1
薬学基本科目	基礎英語	1前	1					1			
	英語Ⅰ	1後	1					1			
	英語Ⅱ	2前	1								兼1
	英語Ⅲ	2後	1								兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1			兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1			
	ドイツ語	1後		1							兼1
	韓国語	1前		1							兼1
	ポルトガル語	3後	1								兼1
	中国語	2後		1			1				
	小計（30科目）	—	16	10.5	0	5	6	2	1	1	兼30
薬学基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2				
	チーム医療論	1前	1			3					兼4
	倫理学	1前	1.5								兼1
	生命倫理学	1後	1.5								兼1
	医学概論	1前	1			3					兼4
	薬学入門	1前	1			5	3				
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1			
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1			
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3				
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1				
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1				
	医療経済・制度論	3前	1.5								兼1
薬学専門基礎科目	地域診療薬学	2前	1.5			1	1				兼1
	薬局経営論	6前		1							兼3
	実践社会薬学	6後	1								兼8
	小計（15科目）	—	18	1	0	11	5	1	0	0	兼15
	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1		
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1					
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	機器分析化学	3前	1.5			1					
	物理系実習	2後	1			2			1	1	
薬学専門基礎科目	物理系薬学演習	2後	1			2					
	無機化学	1後	1			1					
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1				
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1					
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1					
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1				
	生体有機化学	3前	1			1					
	有機構造解析学	2後	1.5			1					

【令和4年度】

授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
		必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
化学系薬学演習	3前	1			1	1		1		
生薬学	1後	1.5			1					
天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
薬用植物学	1前	1.5			1					
生薬学実習	2前	1			1			1	1	
生薬学演習	2前	1			1			1		
機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
分子生物学	2前	1.5			2					
細胞生物学	2後	1.5			1					
微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
免疫学Ⅱ	2後	1				1				
生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
生物系薬学演習	2後	1			3	2				
小計（34科目）	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1			
	食品化学と健康	2後	1.5			1				兼1
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1				
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1	1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1		兼1
	サプリメント概論	6前		1.5		1				
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1		
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1			
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1			
	薬理系実習	3前	1			1	1	1	1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1		
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5			1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5			1				
	薬物動態学実習	3後	1			1			2	
	薬物動態学演習	4前	1			1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1			
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3				
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2			
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3				
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1		
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3			
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1		
	医薬品情報学	3後	1.5				2			
	臨床統計解析学	3後	1.5							兼1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2			
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1				
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1				
	症候学	6前	1.5			3	2			
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2			
	漢方の基礎	3前	1				1			
	漢方薬学	3後	1.5							兼1
	放射線検査医学総論	3前	1.5							兼7
	臨床検査医学総論	3後	1.5							兼1
	病態情報解析学	4前	1			1				
	処方解析演習	6前	1			2	2			
	香粧品学	6前		1						兼1
	鍼灸治療論	6前		1			1			
	創薬化学特論	6前		1						兼1
	医薬品開発概論	6前		1						兼1
	地域健康サポート演習	4前	1			2				兼1
	医薬品副作用学	6前		1.5						兼1

【令和3年度】

授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
		必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
化学系薬学演習	3前	1			1	1		1		
生薬学	1後	1.5			1					
天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
薬用植物学	1前	1.5			1					
生薬学実習	2前	1			1			1	1	
生薬学演習	2前	1			1			1		
機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
分子生物学	2前	1.5			2					
細胞生物学	2後	1.5			1					
微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
免疫学Ⅱ	2後	1				1				
生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
生物系薬学演習	2後	1			3	2				
小計（34科目）	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1			
	食品化学と健康	2後	1.5			1				兼1
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1				
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1		
	衛生系実習	3後	1			1		1	1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1		兼1
	サプリメント概論	6前		1.5		1				
	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		0		
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1			
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1			
	薬理系実習	3前	1			1	1	1	1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1		
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5			1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5			1				
	薬物動態学実習	3後	1			1			2	
	薬物動態学演習	4前	1			1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1			
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3				
	病態薬物治療学Ⅲ (循環器・血液・泌尿器)	3後	1.5			1	2			
	病態薬物治療学Ⅳ (呼吸器・消化器)	4前	1.5			3				
	病態薬物治療学Ⅴ (代謝・内分泌・感覚器・皮膚)	4前	1.5			1	1	1		
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1			
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3			
	セルフメディケーション論	3後	1.5			1	1	1		
	医薬品情報学	3後	1.5				2			
	臨床統計解析学	3後	1.5							兼1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2			
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1				
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1				
	症候学	6前	1.5			3	2			
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2			
	漢方の基礎	3前	1				1			
	漢方薬学	3後	1.5							兼1
	放射線検査医学総論	3前	1.5							兼7
	臨床検査医学総論	3後	1.5							兼1
	病態情報解析学	4前	1			1				
	処方解析演習	6前	1			2	2			
	香粧品学	6前		1						兼1
	鍼灸治療論	6前		1			1			
	創薬化学特論	6前		1						兼1
	医薬品開発概論	6前		1						兼1
	地域健康サポート演習	4前	1			2				兼1
	医薬品副作用学	6前		1.5						兼1

【令和4年度】

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼9
救急処置法	1前	1			1					
フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
チーム医療演習	6前	1			2	1				兼9
実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
病院実務実習	5通	10			4	2	1			兼2
臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			
在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				
災害薬学	6前		1							
総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				兼24
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24
合計(144科目)	—	177.0	19.5	0.0	16	10	5	3	3	兼54
卒業要件及び履修方法										
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位、薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。										

【令和3年度】

授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
早期体験学習	1前	1			3	2	1			兼9
救急処置法	1前	1			1					
フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
チーム医療演習	6前	1			2	1				兼9
実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
病院実務実習	5通	10			4	2	1			兼2
臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			
在宅・地域医療薬学演習	4後	1.5				1				
災害薬学	6前		1							
総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				兼1
総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			
総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				兼24
特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				
特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24
合計(144科目)	—	177.0	19.5	0.0	16	10	5	3	3	兼54
卒業要件及び履修方法										
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位、薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。										

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
薬学 準備科目	化学	1前	1			1			1			
	物理学	1前	1			1						
	生物学	1前	1			1						
	数学	1前	1									兼1
	情報処理	1前	1									兼2
	統計学	1後	1									兼1
	薬学基礎実習	1後	1			5	4	1	2	1		
	アカデミック基礎セミナー	1前	0.5			1	4	1				
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅰ	2後	0.5									兼2
	コミュニケーション・ワークショップ演習Ⅱ	3後	0.5									兼2
	アカデミック技法	1後	0.5				1					
	ボランティア技法	1前		0.5								兼1
	手話技法	2前		0.5								兼1
	心理学	2前		1								兼1
	社会慣習・マナー	1前		0.5								兼1
	社会学	1前		1								兼1
	経済学	2前		1								兼1
	法学	2前		1								兼1
	教育学	1後		1								兼1
	健康スポーツ実技	1前	1									兼1
	基礎英語	1前	1					1				
	英語Ⅰ	1後	1					1				
	英語Ⅱ	2前	1									兼1
	英語Ⅲ	2後	1									兼1
	英会話Ⅰ	2後	1					1				兼1
	英会話Ⅱ	3前		1				1				
	ドイツ語	1後		1								兼1
	韓国語	1前		1								兼1
	ポルトガル語	3後	1									兼1
	中国語	2後		1			1					
小計（30科目）	—	16	10.5	0	5	6	2	1	1		兼30	
薬学 基本科目	薬学概論	1前	1.5			4	2					
	チーム医療論	1前	1			3						兼4
	倫理学	1前	1.5									兼1
	生命倫理学	1後	1.5									兼1
	医学概論	1前	1			3						兼4
	薬学入門	1前	1			5	3					
	医療コミュニケーションⅠ	1後	1					1				
	医療コミュニケーションⅡ	4後	1					1				
	薬学基礎セミナー	1後	1.5			3	3					
	薬事関係法規Ⅰ	3後	1.5				1					
	薬事関係法規Ⅱ	4前	1.5				1					
	医療経済・制度論	3前	1.5									兼1
	地域診療薬学	2前	1.5				1	1				兼1
	薬局経営論	6前		1								兼3
	実践社会薬学	6後	1									兼8
小計（15科目）	—	18	1	0	11	5	1	0	0		兼15	
11 其	物理化学Ⅰ	1後	1.5			1						
	物理化学Ⅱ	2前	1.5			1			1			
	分析化学Ⅰ	1後	1.5			1						
	分析化学Ⅱ	2前	1.5			1						
	機器分析化学	3前	1.5			1						
	物理系実習	2後	1			2			1	1		
	物理系薬学演習	2後	1			2						
	無機化学	1後	1			1						
	有機化学Ⅰ	1後	1.5				1					
	有機化学Ⅱ	2前	1.5			1						
	有機化学Ⅲ	2後	1.5			1						
	有機化学Ⅳ	2後	1.5				1					
	生体有機化学	3前	1			1						
	有機構造解析学	2後	1.5			1						

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	化学系実習	3前	1			1	1		1	1	
	化学系薬学演習	3前	1			1	1		1		
	生薬学	1後	1.5			1					
	天然物薬品化学	3前	1.5			1			1		
	薬用植物学	1前	1.5			1					
	生薬学実習	2前	1			1				1	
	生薬学演習	2前	1			1			1		
	機能形態学Ⅰ	1前	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅱ	1後	1.5			1	1				
	機能形態学Ⅲ	2前	1.5			1	1				
	生化学Ⅰ	1後	1.5			1	1				
	生化学Ⅱ	2前	1.5				1				
	分子生物学	2前	1.5			2					
	細胞生物学	2後	1.5			1					
	微生物学Ⅰ	1後	1.5			1					
	微生物学Ⅱ	2前	1.5			1	1				
	免疫学Ⅰ	2前	1.5			1					
	免疫学Ⅱ	2後	1				1				
	生物系実習	2後	1			3	2	1		1	
	生物系薬学演習	2後	1			3	2				
	小計（34科目）	—	45.5	0	0	7	4	1	3	3	
薬学専門科目	公衆衛生学	2後	1.5			1	1				兼1
	食品化学と健康	2後	1.5			1					
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			1					
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			1		1			
	衛生系実習	3後	1			1		1		1	
	衛生系薬学演習	4前	1			1	1	1			兼1
	サプリメント概論	6前		1.5		1					
薬学専門科目	薬理学Ⅰ	2前	1.5			1		1			
	薬理学Ⅱ	2後	1.5			1	1				
	薬理学Ⅲ	3前	1.5			1	1				
	薬理系実習	3前	1			1	1	1		1	
	薬理系薬学演習	3後	1			1	1	1			
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5				1				
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5				1				
	薬物動態学実習	3後	1				1			2	
	薬物動態学演習	4前	1				1			1	
	感染症治療学Ⅰ	2後	1.5				1				
	感染症治療学Ⅱ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅰ	3前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学Ⅱ	3後	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅲ （排泄器・血液・泌尿器）	3後	1.5			1	2				
	病態薬物治療学Ⅳ （呼吸器・消化器）	4前	1.5			3					
	病態薬物治療学Ⅴ （代謝・内分泌・感覚器・皮	4前	1.5			1	1	1			
	悪性腫瘍治療学	4前	1.5			1	1				
	病態薬物治療学演習	4後	1			3	3				
	セルフメディケー	3後	1.5			1	1	1			
	医薬品情報学	3後	1.5				2				
	臨床統計解析学	3後	1.5								兼1
	医療情報系薬学演習	4前	1				2				
	製剤学Ⅰ	3前	1.5			1					
	製剤学Ⅱ	3後	1.5			1					
	症候学	6前	1.5			3	2				
	臨床薬剤学	4後	1.5			2	2				
	漢方の基礎	3前	1				1				
	漢方薬学	3後	1.5								兼1
	放射線検査医学総論	3前	1.5								兼7
	臨床検査医学総論	3後	1.5								兼1
	病態情報解析学	4前	1			1					
	処方解析演習	6前	1			2	2				
	香粧品学	6前		1							兼1
	鍼灸治療論	6前		1			1				
	創薬化学特論	6前		1							兼1
	医薬品開発概論	6前		1							兼1
	地域健康サポート演習	4前	1			2					兼1
	医薬品副作用学	6前		1.5							兼1

【令和2年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
薬学専門科目	早期体験学習	1前	1			3	2	1			
	救急処置法	1前	1			1					
	フィジカルアセスメント論	3前	1			3	2				
	フィジカルアセスメント演習	3後	1			3	2				
	チーム医療演習	6前	1			2	1				兼9
	実務実習ブレ教育Ⅰ	4前	3			4	2	1			
	実務実習ブレ教育Ⅱ	4後	3			4	2	1			
	薬局実務実習	5通	10			4	2	1			
	病院実務実習	5通	10			4	2	1			
	臨床薬学演習	6前	1			3	2	1			
	在宅・地域医療薬	4後	1.5				1				兼2
	災害薬学	6前		1							兼2
	総合薬学特論Ⅰ	6前	1			7	1				
	総合薬学特論Ⅱ	6前	1			1	1	1			兼1
	総合薬学特論Ⅲ	6前	1			5	3				
	総合薬学特論Ⅳ	6前	1			3	2	1			
	総合薬学特論Ⅴ	6後	1.5			11	4				
	特別研究Ⅰ	4通	2			13	2				
	特別研究Ⅱ	5通	2			13	2				
	特別研究Ⅲ	6通	2			13	2				
	小計（65科目）	—	97.5	8.0	0	15	8	4	1	3	兼24
合計(144科目)			—	177.0	19.5	0.0	16	10	5	3	兼54
卒業要件及び履修方法											
卒業要件として、必修科目177.0単位（（薬学準備科目16.0単位／自然科学7.0単位・コミュニケーション2.0単位・健康とスポーツ1.0単位・外国語6.0単位）、（薬学基本科目18.0単位／基本事項9.5単位・薬学と社会8.5単位）、（薬学専門基礎科目45.5単位／薬学基礎（物理）9.5単位・薬学基礎（化学）18.0単位・薬学基礎（生物）18.0単位）、（薬学専門科目97.5単位／衛生薬学8.0単位・医療薬学44.5単位・薬学臨床39.0単位・薬学研究6.0単位））、選択科目9.5単位以上（（薬学準備科目5.5単位以上／コミュニケーション1.5単位以上・社会科学2.0単位以上・外国語2.0単位以上）、（薬学基本科目と薬学専門科目から4単位以上）、計186.5単位以上修得すること。											

（注）・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には【※】、「臨床実務実習」による授業科目には【臨】、「連携実務演習」による授業科目には【連】を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に（新）又は（旧）と追記してください。（例：記載順）【認可時又は届出時】→【令和7年度（新）】→【令和6年度（新）】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度（旧）】→【令和6年度（旧）】

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

【令和3年度】

・専任教員の赴任が令和3年4月から令和4年4月となったことから、「薬理学Ⅰ」の専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。なお、本講師の担当部分は、本科目の教授が担当することとする。（令和2年9月AC教員審査受審済）

【令和4年度】

・令和3年度履行状況調査報告時に講師1名が着任延期となり、「薬理学Ⅰ」の専任教員等の配置を変更した。当該講師1名について予定通り令和4年4月に着任した為、「薬理学Ⅰ」を認可申請時の専任教員等の配置状態に戻す。

【令和5年度】

変更なし。

【令和6年度】

特になし。

【令和7年度】

・専任から非常勤に変更した教員がいるため、「化学」「薬学基礎実習」「化学系実習」「化学系薬学演習」の専任教員等の配置を「助教」を－1とし、「兼任・兼担」を＋1とする。
・令和6年度にて退職した教員がいるため、「薬理学Ⅰ」「薬理系実習」「薬理系薬学演習」「病態薬物治療学Ⅴ」の専任教員等の配置を「講師」を－1とし、「教授」を＋1とする。
・過年度に退職した教員がいるため、「チーム医療論」の専任教員等の配置を「兼任・兼担」を－1とし、「教授」を＋1とする。

- (注)・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
124 科目	20 科目	0 科目	144 科目	124 科目 []	20 科目 []	0 科目 []	144 科目 []	

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。

なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

無し

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{144} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分			内 容					備考		
(1)校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地		65,616.54㎡	- ㎡	- ㎡	65,616.54㎡				
	運動場用地		15,564.00㎡	- ㎡	- ㎡	15,564.00㎡				
	小 計		81,180.54	- ㎡	- ㎡	81180.54				
	そ の 他		146,371.06	- ㎡	- ㎡	146371.06				
	合 計		227,551.60㎡	- ㎡	- ㎡	227,551.60㎡				
(2) 校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
			32,514.60㎡ (32,514.60㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	32,514.60㎡ (32,514.60㎡)				
(3) 教 室 等			講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
			36室	16室	54室	4室 (補助職員 一人)	1室 (補助職員 一人)			
(4) 専任教員研究室			新設学部等の名称			室 数				
			薬学部 薬学科			30 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	外国書の完成年度冊数増加は、内容を英語多読用の安価なものとして冊数を増やしたため。予算金額は変わらない(3) 学生・教員からの希望図書を中心に購入したところ、和書は当初予定を超過する見通しとなった。洋書についてもこれまでの購入実績から完成年度の予定冊数を変更した。(5)	
		薬学部	4,305〔400〕 -〔558〕 4,814〔487〕 (4,725〔485〕)	38〔8〕 (38〔 8 〕)	7〔7〕 (7〔 7 〕)	60 (59)	4,255 (4,255)	0 (0)		
		計	4,305〔400〕 -〔558〕 4,814〔487〕 (4,725〔485〕)	38〔8〕 (38〔 8 〕)	7〔7〕 (7〔 7 〕)	60 (59)	4,255 (4,255)	0 (0)		
	(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		2,176.73㎡		252		170,000				
(7) 体 育 館			面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
			1,783.08㎡		テニスコート2面、屋外バスケットコート 1 面		体 育 室 2 部 屋			
(8)経費の見積りの及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	規程変更のため(5)	
		教員1人当たり研究費等		600千円	上限800 600千円	図書購入費	34,053千円	16,004千円		19,690千円
		共 同 研 究 費 等		0千円	0千円	設備購入費	992,243千円	12,434千円		32,000千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		2,150千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、補助活動収入、寄付金、雑収入等						

4 既設大学等の状況

岐 阜 医 療 科 学 大 学											収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
大学 学 校 名 称	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考		
		年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度				
	看護学部	4	100	-	400	-	1.03	1.02	-	平成30年度	岐阜県可児市虹ヶ丘 4-3-3			
	看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.03	1.02	-	平成30年度	同上			
	保健科学部	4	180	-	720	-	1.07	1.02	-	平成18年度	岐阜県関市市平賀 字長峰795-1			
	臨床検査学科	4	90	-	360	学士 (保健学)	0.87	0.82	-	平成18年度	同上			
	放射線技術学科	4	90	-	360	学士 (保健学)	1.26	1.21	-	平成18年度	同上			
	薬学部	6	100	-	600	-	0.74	-	-	令和2年度	岐阜県可児市虹ヶ丘 4-3-3			
	薬学科	6	100	-	600	学士 (薬学)	0.74	-	-	令和2年度	同上			
	大学全体	-	380	-	1720	-	0.95	0.92	-	-	-			

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等

（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部、学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度 A C の対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」

第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

＜薬学部 薬学科＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	宇野 文二 (64) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (66) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (67) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (68) <令和2年4月>	専	教授	宇野 文二 (69) <令和2年4月>
		分析化学Ⅰ			分析化学Ⅰ			分析化学Ⅰ			分析化学Ⅰ			分析化学Ⅰ
		分析化学Ⅱ			分析化学Ⅱ			分析化学Ⅱ			分析化学Ⅱ			分析化学Ⅱ
		機器分析化学			機器分析化学			機器分析化学			機器分析化学			機器分析化学
		物理系実習			物理系実習			物理系実習			物理系実習			物理系実習
専	教授	伊藤 哲朗 (47) <令和2年4月>	専	教授	伊藤 哲朗 (49) <令和2年4月>	専	教授	伊藤 哲朗 (50) <令和2年4月>	専	教授	伊藤 哲朗 (51) <令和2年4月>	専	教授	伊藤 哲朗 (52) <令和2年4月>
		薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習
		薬学入門			薬学入門			薬学入門			薬学入門			薬学入門
		生薬学			生薬学			生薬学			生薬学			生薬学
		天然物薬品化学			天然物薬品化学			天然物薬品化学			天然物薬品化学			天然物薬品化学
専	教授	福田 直樹 (64) <令和2年4月>	専	教授	福田 直樹 (66) <令和2年4月>	専	教授	福田 直樹 (67) <令和2年4月>	専	教授	福田 直樹 (69) <令和2年4月>	専	教授	福田 直樹 (69) <令和2年4月>
		薬学概論			薬学概論			薬学概論			薬学概論			薬学概論
		薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー
		薬理学Ⅰ			薬理学Ⅰ			薬理学Ⅰ			薬理学Ⅰ			薬理学Ⅰ
		薬理学Ⅱ			薬理学Ⅱ			薬理学Ⅱ			薬理学Ⅱ			薬理学Ⅱ
専	教授	金子 葉子 (55) <令和2年4月>	専	教授	金子 葉子 (57) <令和2年4月>	専	教授	金子 葉子 (58) <令和2年4月>	専	教授	金子 葉子 (59) <令和2年4月>	専	教授	金子 葉子 (60) <令和2年4月>
		生物学			生物学			生物学			生物学			生物学
		薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習
		機能形態学Ⅰ			機能形態学Ⅰ			機能形態学Ⅰ			機能形態学Ⅰ			機能形態学Ⅰ
		機能形態学Ⅱ			機能形態学Ⅱ			機能形態学Ⅱ			機能形態学Ⅱ			機能形態学Ⅱ
専	教授	笹井 泰志 (44) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (46) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (47) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (48) <令和2年4月>	専	教授	笹井 泰志 (49) <令和2年4月>
		物理化学Ⅰ			物理化学Ⅰ			物理化学Ⅰ			物理化学Ⅰ			物理化学Ⅰ
		物理化学Ⅱ			物理化学Ⅱ			物理化学Ⅱ			物理化学Ⅱ			物理化学Ⅱ
		物理系実習			物理系実習			物理系実習			物理系実習			物理系実習
		物理系薬学演習			物理系薬学演習			物理系薬学演習			物理系薬学演習			物理系薬学演習
専	教授	杉山 剛志 (55) <令和2年4月>	専	教授	杉山 剛志 (57) <令和2年4月>	専	教授	杉山 剛志 (58) <令和2年4月>	専	教授	杉山 剛志 (59) <令和2年4月>	専	教授	杉山 剛志 (60) <令和2年4月>
		薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習			薬学基礎実習
		薬学入門			薬学入門			薬学入門			薬学入門			薬学入門
		薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー			薬学基礎セミナー
		微生物学Ⅰ			微生物学Ⅰ			微生物学Ⅰ			微生物学Ⅰ			微生物学Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	薬師 淳子 (56) ＜令和2年4月＞	チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
		赤堀 克己 (54) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	様田 雄大 (48) ＜令和4年4月＞	数学 統計学
		放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任 准教授	篠原 龍充 (49) ＜令和7年4月＞	チーム医療演習
		下郷 智弘 (48) ＜令和4年4月＞
兼任 教授	西出 裕子 (61) ＜令和4年4月＞	放射線検査医学総論 チーム医療演習
		八田 武俊 (45) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	服部 高幸 (52) ＜令和7年4月＞	情報処理 心理学
		チーム医療演習
兼任 准教授	三嶋 智之 (44) ＜令和3年4月＞	食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
		水谷 さおり (57) ＜令和7年4月＞
兼任 准教授	山内 浩司 (50) ＜令和4年4月＞	チーム医療演習 放射線検査医学総論
		吉田 貴博 (44) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	石井 美枝 (58) ＜令和2年4月＞	情報処理 放射線検査医学総論
		加藤 太喜子 (49) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	福澤 大樹 (36) ＜令和5年4月＞	倫理学 生命倫理学
		福澤 大樹 (36) ＜令和5年4月＞
兼任 助教	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	薬師 淳子 (56) ＜令和2年4月＞	チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
		赤堀 克己 (56) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	様田 雄大 (50) ＜令和4年4月＞	数学 統計学
		放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任 教授	篠原 龍充 (51) ＜令和7年4月＞	チーム医療演習
		下郷 智弘 (50) ＜令和4年4月＞
兼任 教授	西出 裕子 (63) ＜令和4年4月＞	放射線検査医学総論 チーム医療演習
		八田 武俊 (47) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	服部 高幸 (54) ＜令和7年4月＞	情報処理 心理学
		チーム医療演習
兼任 准教授	三嶋 智之 (46) ＜令和3年4月＞	食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
		水谷 さおり (59) ＜令和7年4月＞
兼任 准教授	山内 浩司 (52) ＜令和4年4月＞	チーム医療演習 放射線検査医学総論
		吉田 貴博 (46) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	石井 美枝 (60) ＜令和2年4月＞	情報処理 放射線検査医学総論
		加藤 太喜子 (50) ＜令和2年4月＞
兼任 助教	福澤 大樹 (38) ＜令和5年4月＞	倫理学 生命倫理学
		福澤 大樹 (38) ＜令和5年4月＞
兼任 助教	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	薬師 淳子 (57) ＜令和2年4月＞	チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
		赤堀 克己 (57) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	様田 雄大 (51) ＜令和4年4月＞	数学 統計学
		放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任 教授	篠原 龍充 (52) ＜令和7年4月＞	チーム医療演習
		下郷 智弘 (52) ＜令和4年4月＞
兼任 教授	西出 裕子 (64) ＜令和4年4月＞	放射線検査医学総論 チーム医療演習
		八田 武俊 (55) ＜令和7年4月＞
兼任 准教授	服部 高幸 (55) ＜令和7年4月＞	情報処理 心理学
		チーム医療演習
兼任 准教授	三嶋 智之 (47) ＜令和3年4月＞	食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
		水谷 さおり (60) ＜令和7年4月＞
兼任 准教授	山内 浩司 (53) ＜令和4年4月＞	チーム医療演習 放射線検査医学総論
		吉田 貴博 (47) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	石井 美枝 (61) ＜令和2年4月＞	情報処理 放射線検査医学総論
		加藤 太喜子 (51) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	福澤 大樹 (39) ＜令和5年4月＞	倫理学 生命倫理学
		福澤 大樹 (39) ＜令和5年4月＞
兼任 講師	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	薬師 淳子 (60) ＜令和2年4月＞	チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
		赤堀 克己 (58) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	様田 雄大 (52) ＜令和4年4月＞	数学 統計学
		放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任 教授	篠原 龍充 (53) ＜令和7年4月＞	チーム医療演習
		下郷 智弘 (53) ＜令和4年4月＞
兼任 教授	西出 裕子 (65) ＜令和4年4月＞	放射線検査医学総論 チーム医療演習
		三嶋 智之 (48) ＜令和3年4月＞
兼任 准教授	水谷 さおり (61) ＜令和7年4月＞	食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
		チーム医療演習 放射線検査医学総論
兼任 准教授	山内 浩司 (54) ＜令和4年4月＞	チーム医療演習 放射線検査医学総論
		吉田 貴博 (48) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	石井 美枝 (62) ＜令和2年4月＞	情報処理 放射線検査医学総論
		加藤 太喜子 (52) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	福澤 大樹 (40) ＜令和5年4月＞	倫理学 生命倫理学
		福澤 大樹 (40) ＜令和5年4月＞
兼任 講師	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	薬師 淳子 (61) ＜令和2年4月＞	チーム医療論 医学概論 地域診療薬学 在宅・地域医療薬学演習
		赤堀 克己 (59) ＜令和2年4月＞
兼任 准教授	様田 雄大 (53) ＜令和4年4月＞	数学 統計学
		放射線検査医学総論 チーム医療演習
兼任 教授	篠原 龍充 (54) ＜令和7年4月＞	チーム医療演習
		下郷 智弘 (53) ＜令和4年4月＞
兼任 教授	西出 裕子 (66) ＜令和4年4月＞	放射線検査医学総論 チーム医療演習
		三嶋 智之 (49) ＜令和3年4月＞
兼任 准教授	水谷 さおり (62) ＜令和7年4月＞	食品化学と健康 衛生系薬学演習 総合薬学特論Ⅱ
		チーム医療演習 放射線検査医学総論
兼任 准教授	山内 浩司 (55) ＜令和4年4月＞	チーム医療演習 放射線検査医学総論
		吉田 貴博 (49) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	石井 美枝 (63) ＜令和2年4月＞	情報処理 放射線検査医学総論
		加藤 太喜子 (53) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	福澤 大樹 (41) ＜令和5年4月＞	倫理学 生命倫理学
		福澤 大樹 (41) ＜令和5年4月＞
兼任 講師	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習	チーム医療演習 在宅・地域医療薬学演習

兼任 教授	三谷 智子 (66) ＜令和7年4月＞	災害薬学
		有川 幸孝 (67) ＜令和7年4月＞
兼任 講師	磯村 高弘 (44) ＜令和2年4月＞	実践社会薬学
		ドイツ語
兼任 講師	井上禰太郎 (72) ＜令和7年4月＞	ドイツ語
		香粧品学
兼任 講師	井澤 宏和 (54) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学
		橋本 大介 (36) ＜令和2年4月＞
兼任 講師	衛 紀生 (74) ＜令和3年4月＞	教育学
		コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任 講師	大橋 哲也 (64) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学

兼任 講師	三谷 智子 (68) ＜令和7年4月＞	災害薬学
		有川 幸孝 (69) ＜令和7年4月＞
兼任 講師	磯村 高弘 (47) ＜令和2年4月＞	実践社会薬学
		ドイツ語
兼任 講師	井上禰太郎 (74) ＜令和7年4月＞	ドイツ語
		香粧品学
兼任 講師	井澤 宏和 (57) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学
		衛 紀生 (77) ＜令和3年4月＞
兼任 講師	大橋 哲也 (66) ＜令和7年4月＞	コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
		薬局経営論 実践社会薬学

兼任 講師	三谷 智子 (69) ＜令和7年4月＞	災害薬学
		有川 幸孝 (70) ＜令和7年4月＞
兼任 講師	磯村 高弘 (48) ＜令和2年4月＞	実践社会薬学
		ドイツ語
兼任 講師	井上禰太郎 (75) ＜令和7年4月＞	ドイツ語
		香粧品学
兼任 講師	井澤 宏和 (58) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学
		衛 紀生 (78) ＜令和3年4月＞
兼任 講師	大橋 哲也 (67) ＜令和7年4月＞	コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
		薬局経営論 実践社会薬学

兼任 講師	三谷 智子 (70) ＜令和7年4月＞	災害薬学
		有川 幸孝 (71) ＜令和7年4月＞
兼任 講師	磯村 高弘 (49) ＜令和2年4月＞	実践社会薬学
		ドイツ語
兼任 講師	井上禰太郎 (76) ＜令和7年4月＞	ドイツ語
		香粧品学
兼任 講師	井澤 宏和 (59) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学
		衛 紀生 (79) ＜令和3年4月＞
兼任 講師	大橋 哲也 (68) ＜令和7年4月＞	コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
		薬局経営論 実践社会薬学

兼任 講師	三谷 智子 (72) ＜令和7年4月＞	災害薬学
		有川 幸孝 (72) ＜令和7年4月＞
兼任 講師	磯村 高弘 (50) ＜令和2年4月＞	実践社会薬学
		ドイツ語
兼任 講師	井上禰太郎 (77) ＜令和7年4月＞	ドイツ語
		香粧品学
兼任 講師	井澤 宏和 (60) ＜令和7年4月＞	薬局経営論 実践社会薬学
		衛 紀生 (80) ＜令和3年4月＞
兼任 講師	大橋 哲也 (69) ＜令和7年4月＞	コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
		薬局経営論 実践社会薬学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大脇 弘之 (69) <令和7年4月> 創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任	講師	岡本 秀範 (70) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	小川 久 (64) <令和2年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	菅野 進 (74) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	北村 隆幸 (39) <令和2年4月> ボランティア実技
兼任	講師	坂江 レアンドロ ユウキ (39) <令和4年4月> ホルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任	講師	Jeremy L. Hall (41) 英語Ⅰ
兼任	講師	代田 知之 (31) <令和3年4月> 経済学
兼任	講師	杉浦 昭子 (71) <令和7年4月> 東局経営論 実践社会学
兼任	講師	鈴木 朋子 (58) <令和3年4月> 英語Ⅱ
兼任	講師	染川 智勇 (54) <令和3年4月> 手話技法
兼任	講師	籠 知也 (45) <令和4年4月> 医療経済・制度
兼任	講師	趙 賢美 (46) <令和2年4月> 韓国語
兼任	講師	中村 光浩 (59) <令和4年4月> 臨床統計学 医薬品副作用学
兼任	講師	西川 信廣 (71) <令和3年4月> コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任	講師	萩原 聡央 (49) <令和3年4月> 法学
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (61) <令和2年4月> 社会慣習・フリースタイル
兼任	講師	林 秀樹 (52) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 信司 (70) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (69) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	山内 康裕 (57) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	吉川 彩生 (64) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (62) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	飯沼 崇和 (75) <令和4年4月> 漢方薬学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大脇 弘之 (71) <令和7年4月> 創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任	講師	岡本 秀範 (72) <令和3年4月> 英語Ⅱ
兼任	講師	菅野 進 (76) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	北村 隆幸 (41) <令和3年4月> ボランティア実技
兼任	講師	坂江 レアンドロ ユウキ (41) <令和4年4月> ホルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任	講師	代田 知之 (33) <令和3年4月> 経済学
兼任	講師	杉浦 昭子 (73) <令和7年4月> 東局経営論 実践社会学
兼任	講師	染川 智勇 (56) <令和3年4月> 手話技法
兼任	講師	趙 賢美 (48) <令和2年4月> 韓国語
兼任	講師	中村 光浩 (61) <令和4年4月> 医薬品副作用学
兼任	講師	西川 信廣 (73) <令和3年4月> コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任	講師	萩原 聡央 (51) <令和3年4月> 法学
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (63) <令和2年4月> 社会慣習・フリースタイル
兼任	講師	林 秀樹 (54) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 信司 (72) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (71) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	山内 康裕 (60) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	吉川 彩生 (66) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (65) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	杉山 実加 (33) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	服部 長務 (72) <令和2年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	ボイズ ニコラス (30) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	マイケル シャーボーン (41) <令和3年4月> 英語Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大脇 弘之 (72) <令和7年4月> 創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任	講師	岡本 秀範 (73) <令和3年4月> 英語Ⅱ
兼任	講師	菅野 進 (77) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	北村 隆幸 (42) <令和3年4月> ボランティア実技
兼任	講師	坂江 レアンドロ ユウキ (42) <令和4年4月> ホルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任	講師	代田 知之 (34) <令和3年4月> 経済学
兼任	講師	杉浦 昭子 (74) <令和7年4月> 東局経営論 実践社会学
兼任	講師	染川 智勇 (57) <令和3年4月> 手話技法
兼任	講師	趙 賢美 (49) <令和2年4月> 韓国語
兼任	講師	中村 光浩 (62) <令和4年4月> 医薬品副作用学
兼任	講師	西川 信廣 (74) <令和3年4月> コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任	講師	萩原 聡央 (52) <令和3年4月> 法学
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (63) <令和2年4月> 社会慣習・フリースタイル
兼任	講師	林 秀樹 (55) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 信司 (73) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (72) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	山内 康裕 (61) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	吉川 彩生 (67) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (66) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	飯沼 崇和 (78) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	杉山 実加 (34) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	服部 長務 (73) <令和3年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	ボイズ ニコラス (41) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	マイケル シャーボーン (42) <令和3年4月> 英語Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大脇 弘之 (73) <令和7年4月> 創薬化学特論 医薬品開発概論
兼任	講師	岡本 秀範 (74) <令和3年4月> 英語Ⅱ
兼任	講師	菅野 進 (78) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	北村 隆幸 (43) <令和2年4月> ボランティア実技
兼任	講師	坂江 レアンドロ ユウキ (43) <令和4年4月> ホルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任	講師	代田 知之 (35) <令和3年4月> 経済学
兼任	講師	杉浦 昭子 (75) <令和7年4月> 東局経営論 実践社会学
兼任	講師	染川 智勇 (58) <令和3年4月> 手話技法
兼任	講師	趙 賢美 (50) <令和2年4月> 韓国語
兼任	講師	中村 光浩 (63) <令和4年4月> 医薬品副作用学
兼任	講師	西川 信廣 (75) <令和3年4月> コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任	講師	萩原 聡央 (54) <令和3年4月> 法学
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (64) <令和2年4月> 社会慣習・フリースタイル
兼任	講師	林 秀樹 (56) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 信司 (74) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	松永 良治 (73) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	山内 康裕 (61) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	吉川 彩生 (68) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (67) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	飯沼 崇和 (80) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	杉山 実加 (35) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	服部 長務 (74) <令和3年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	ボイズ ニコラス (42) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	マイケル シャーボーン (43) <令和3年4月> 英語Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	岡本 秀範 (75) <令和3年4月> 英語Ⅱ
兼任	講師	北村 隆幸 (44) <令和2年4月> ボランティア実技
兼任	講師	坂江 レアンドロ ユウキ (44) <令和4年4月> ホルトガル語 地域健康サポート演習※
兼任	講師	代田 知之 (36) <令和3年4月> 経済学
兼任	講師	染川 智勇 (59) <令和3年4月> 手話技法
兼任	講師	趙 賢美 (51) <令和2年4月> 韓国語
兼任	講師	中村 光浩 (64) <令和4年4月> 医薬品副作用学
兼任	講師	西川 信廣 (76) <令和3年4月> コミュニケーション・ワークショップ コミュニケーション・ワークショップ
兼任	講師	萩原 聡央 (54) <令和3年4月> 法学
兼任	講師	蜂須賀 三稀 (64) <令和2年4月> 社会慣習・フリースタイル
兼任	講師	林 秀樹 (57) <令和7年4月> 災害薬学
兼任	講師	前田 信司 (75) <令和4年4月> 臨床検査医学総論
兼任	講師	山内 康裕 (62) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	吉川 彩生 (69) <令和2年4月> 社会学
兼任	講師	吉村 知哲 (67) <令和7年4月> 実践社会学
兼任	講師	飯沼 崇和 (80) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	杉山 実加 (36) <令和2年4月> 教育学
兼任	講師	服部 長務 (75) <令和3年4月> 健康スポーツ実技
兼任	講師	ボイズ ニコラス (42) <令和3年4月> 英語Ⅲ
兼任	講師	マイケル シャーボーン (44) <令和3年4月> 英語Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ヒュース 由貴(徳川 友樹) (50) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	満田 恵子 (51) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	新井 英夫 (56) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	市原 裕 (64) <令和4年4月> 医療経済・制度論
兼任	講師	一宮 尚志 (51) <令和4年4月> 臨床統計解析学
兼任	講師	笠 香織 (31) <令和4年4月> 漢方薬学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ヒュース 由貴(徳川 友樹) (50) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	満田 恵子 (52) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	新井 英夫 (56) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	市原 裕 (65) <令和4年4月> 医療経済・制度論
兼任	講師	一宮 尚志 (52) <令和4年4月> 臨床統計解析学
兼任	講師	笠(原谷) 香織 (32) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	瀬戸口 郁 (50) <令和4年4月> コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ヒュース 由貴(徳川 友樹) (50) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	満田 恵子 (53) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	新井 英夫 (57) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	市原 裕 (66) <令和4年4月> 医療経済・制度論
兼任	講師	一宮 尚志 (53) <令和4年4月> 臨床統計解析学
兼任	講師	笠(原谷) 香織 (33) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	瀬戸口 郁 (50) <令和4年4月> コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ
兼任	講師	細貝 光司 (43) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	富沢(伊藤) 亜古 (65) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	岸嶋 龍至 (52) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ヒュース 由貴(徳川 友樹) (50) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	満田 恵子 (54) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	新井 英夫 (58) <令和3年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	市原 裕 (67) <令和4年4月> 医療経済・制度論
兼任	講師	一宮 尚志 (54) <令和4年4月> 臨床統計解析学
兼任	講師	笠(原谷) 香織 (34) <令和4年4月> 漢方薬学
兼任	講師	瀬戸口 郁 (60) <令和4年4月> コミュニケーション・ワーク ショップ演習Ⅱ
兼任	講師	細貝 光司 (44) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	富沢(伊藤) 亜古 (66) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	岸嶋 龍至 (53) <令和6年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	半田 将仁 (43) <令和7年4月> コミュニケーション・ワーク コミュニケーション・ワーク
兼任	講師	佐口 寿 (51) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	成山 剛行 (56) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	松野 英子 (62) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	奥山 修司 (59) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	岸邊 義紀子 (52) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	杉浦 克典 (46) <令和7年4月> 東馬経官論
兼任	講師	水谷 有紀子 (53) <令和7年4月> 香粧品学
兼任	講師	嶋田 寛 (66) <令和7年5月> 新薬化学概論
兼任	講師	瀬戸 邦匡 (52) <令和7年6月> 医薬品開発概論
兼任	講師	川谷 陽子 (54) <令和7年7月> 漢方薬学
兼任	講師	山岸 庸太 (60) <令和7年8月> 漢方薬学

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

専任教員については特になし。

【令和3年度】

- ・宗林教授の就任が一身上の都合により、令和3年4月から令和3年10月に変更。
担当授業科目は全て令和3年10月以降の開講科目であることから、教育活動に問題はない。
- ・吉岡講師の就任が滞在先である米国での研究活動継続のため、令和3年4月から令和4年4月に変更。
担当予定科目の内、令和3年度開講科目である「薬理学Ⅰ」は、稲垣教授に変更（令和2年9月AC教員審査済）。
その他の担当科目については令和4年度以降の開講科目であることから教育活動に問題はない。

【令和4年度】

- ・令和4年4月吉岡講師就任。

【令和5年度】

特になし。

【令和6年度】

特になし。

【令和7年度】

- ・専任教員の小縣助教が、兼任（非常勤）に変更となったが、令和7年度も引き続き認可申請時の科目を担当するため、特段の影響はない。
- ・専任教員の吉岡講師が一身上の都合で退職した。それに伴い、山下教授を令和7年度から専任教員として採用し、「薬理学Ⅰ」「薬理系実習」「薬理系薬学実習」「病態薬物治療学Ⅴ」を引継ぎこととなった。そのため、当該科目の教育活動に問題はない。（令和6年12月AC教員審査済）
- ・専任教員の服部教授が過年度に退任しているため、令和7年度（6年次）開講の「チーム医療演習」は認可申請時の予定から、服部教授から田中教授に変更して実施する。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）」の設置の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-④ 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学・高専】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
28 名	14 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
16	10	5	3	34	3	17	10	5	1	33	3
(15)	(10)	(3)	(3)	(31)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
17	10	5	1	33	3	17	10	5	1	33	3
[+1]	[±0]	[±0]	[△2]	[△1]	[±0]	[+1]	[±0]	[±0]	[△2]	[△1]	[±0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、**認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入**するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授：65歳 教授以外：62歳 歳	10 名	10 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{33}{34} = \boxed{97.05} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{10}{33} = \boxed{30.3} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1		該当なし					
2							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）		
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	講師	吉岡 弘毅	R7.3	必修	薬理学Ⅰ	①	令和7年4月付けで他大学に移籍するため、令和7年3月付けで辞任（R7）
				必修	薬理系実習	①	
				必修	薬理系薬学演習	①	
				必修	病態薬物治療学Ⅴ	①	
2	助教	小縣 綾	R7.3	必修	化学	②	令和7年4月付けで他大学に移籍するため、令和7年3月付けで辞任（R7）
				必修	薬学基礎実習	②	
				必修	化学系実習	②	
				必修	化学系薬学演習	②	
合計（F）					後任補充状況の集計（G）		
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		
2	人	必修	8	科目	必修	4	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	4	科目

(注) 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。

- 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）				
辞任等した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）
2	人	必修	8	科目	必修	4	科目	必修	0
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	8	科目	計	4	科目	計	0

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{34} = 5.88 \%$$

(注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

(注) (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

- 令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1		該当なし								
2										
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任後に退職となった教員は2名である。
 吉岡弘毅講師は開設2年後の令和4年4月に就任したが、自身のキャリア形成を優先し北里大学医学部准教授に採用が決まったため令和7年3月辞任した。辞任の意向が令和6年10月に示されたため直ぐに後任人事を行い、同等以上の人材が確保され、令和7年4月に着任しており教育は問題なく遂行できている。小縣綾助教は開設初年度に就任したが、自身のキャリア形成を優先し岐阜大学応用生物科学部准教授に採用が決まったため令和7年3月辞任した。辞任の意向が伝えられたのが令和7年1月末であったため、小縣助教が担当していた講義、演習、実習科目について令和7年4月より非常勤講師として引き続き担当することになって教育は問題なく遂行できている。後任人事については検討中である。
 本学では学生一人に対し担任、副担任の二人の教員を当てているため、当該教員が担当する学生への周知と対応は重要で、該当学生には周知している。また各学年のガイダンス時には、辞任教員と新任教員の周知を実施しており、大きな問題は起きていない。

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入し

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	<p>就任予定教員は、設置計画通りに全員の配置を行った。本年度については、当初の教育計画を履行しながら、定年規程の適切な運用に努め、完成年度以降の体制を見据えた教員組織編制の将来構想を実現できるようにしていく。(2)</p> <p>本年度、将来構想に基づき設置計画どおり助手1名の採用を行った。教授1名の赴任が半年延期となるが、担当授業科目の開講予定が就任時期以降であることから問題はない。また、講師1名の赴任が米国での研究活動継続のため1年延期となったが、担当科目については令和2年9月のAC教員審査を経て承認された代替えの教授が担当するため授業計画に問題はない。今後も、将来を見据えた教員組織体制の充実に努めていく。(3)</p> <p>赴任延期となっていた教員2名が今年度に着任し、設置計画で予定していた教員組織体制が整備された。(4)</p> <p>助手1名が自己都合により退職。現在、助手1名の採用活動実施中。(5)</p> <p>採用活動していた助手1名が着任。設置計画で予定していた教員組織体制が整備された。(6)</p> <p>設置時の計画のとおり、適正な教員編成とするため教育・研究活動を充実し助教1名講師へ昇任させた。講師・助教各1名が自己都合により退職したが、教授を1名採用、退職した助教については引き続き非常勤講師として担当しており、授業計画に大きな変更・問題はないが、今後も組織体制強化のため、採用活動をすすめていく。(7)</p>	<p>准教授以下の専任教員について、完成年度以降に昇任できるよう教育・研究活動の充実をしていく。</p> <p>完成年度中に定年年齢となる教員について、新規に適任者を採用できるよう準備を進め、完成年度後の退職時に遅滞なく更新できるようにする。</p>
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年度)	該当なし		履行済
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和4年度)	該当なし		履行済
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和5年度)	該当なし		履行済
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	該当なし		履行済

7 その他全般的事項

<薬学部 薬学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
1学期の授業期間 15週 (2)	新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前期の講義開始日を4月10日から4月22日以降に変更した。これにより前期の授業期間を15週から13週に変更したが、一部リモート講義を実施することで講義回数を変更せず、シラバスどおりに実施する予定。(2)
一般入学試験について受験科目を3科目として、うち「化学」「英語」を必須科目とし、「数学」「物理」「生物」から1科目を選択する。大学入学共通テスト試験について、3科目の成績(「化学」「英語」は必須)を評価する。(3)	本学部志願者の多様化をはかるため、本試験形態を残しながら、本学及び本学部教育目的及び本学部アドミッション・ポリシーに照らし満足できる他の試験形態を追加する予定。(3)

(注)・1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SDセンターを設置し、FD・SD活動に関する推進事項を審議し、実行している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>FD・SDセンターはセンター長1名(教員) 副センター長1名(教員)のほか、センター員として教員6名、事務員3名 計11名で構成しており、令和6年度はセンター会議を7回開催した。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>岐阜医療科学大学 FD・SD センター規程第3条に規定する審議事項等は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の内容及び方法の改善を図る方策に関する事項 2. 学生による授業評価アンケート等の実施、結果の分析及び調査項目・方法の改善に関する事項 3. 本学の教職員人材育成方針に掲げる「求める人材像」育成のための研修等の企画・実施に関する事項 4. FD・SD の啓発活動に関する事項 5. その他 FD・SD 活動推進に関する事項 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>FD・SD研修会に加え、新規採用者に対して研修用教材(動画データ)の視聴によるSD研修を実施</p> <p>また、毎年学期末に実施している授業評価アンケートのほか、各学期の中間期アンケートを実施した。</p> <p>実施項目は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)教職員FD・SD研修会(年2回)□ (2)研修用教材視聴による教職員SD研修 (3)授業評価アンケート(各学期末および中間期) (4)授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施 <p>b 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)教職員FD・SD研修会 全教職員を対象として2時間程度の研修会を年2回実施する。 (2)研修用教材視聴による教職員のSD研修 令和6年度新規採用者を対象に期間を定め研修用教材を配信し視聴後報告書を提出。 また、新任以外の教職員は別に期間定め視聴した。 (3)授業評価アンケート ・期末アンケート 前期・後期の2回、ポータルサイトを通じて実施。 ・中間アンケート 前期・後期の8または9回目講義終了後、Formsにて実施。 (4)授業評価アンケート結果に基づく各教員のリフレクション(内省)の実施 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)教職員FD・SD研修会は、8月と12月の2回、研修会を実施し、ほぼ全教職員が参加した。 参加できない教職員については、研修会を録画しオンデマンドで視聴した。 (2) 研修教材研修:新任は視聴期間は5月中、新任以外の教職員は5月～9月の期間内に視聴した。 	
---	--

【教職員FD・SD研修会】

・第1回 令和6(2024)年8月30日(金)

テーマ：「高等教育における生成系AI活用可能性とその影響」

講師：名古屋大学 教育基盤連携本部 高等教育システム開発部門
高等教育センター 特任教授 和嶋 雄一郎 氏

・第2回 令和6(2024)年12月26日(木)

第1部：テーマ「大学における生成系AIの利活用」

講師：株式会社エクサウィザーズ 山中 藍 氏

第2部：テーマ「学修者本位の教学マネジメント」

講師：まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員 村山 和生 氏

【研修用教材視聴によるSD研修】

視聴期間(新任教職員)：令和6年5月13日(月)～5月31日(金)

(新任 以外)：令和6年5月13日(月)～9月30日(月)

教材名 「キャンパスハラスメント講座」

実施形態 (新 任) 教材を 期間内に視聴し、視聴後の感想等(指定様式)を提出

(新任以外) 視聴のみ、システムへのログ確認等で視聴管理を行う。ほぼ全員が視聴

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

(1) 教職員FD・SD研修会(年2回)

令和6年度第1回目研修では、大学教育における生成AIの活用とそれに伴う倫理的、法的問題点を知り、今後どのように教育に活用できるかについて学んだ。第2回目の第1部は、SD研修として位置付け、第1回で学んだ生成AIの活用等について利用する際のリスク、具体的な活用事例を中心に説明を受け、今後の教育研究活動に役立てる。第2部は、FD研修として実施し、講演のテーマ「学修者本位の教学マネジメント」が求められる背景と今後や「学修者」の変化と対応について、他大学の状況を交えた説明により、教学マネジメントについて改めて確認し取り組みを進めている。

今年度も教職員にとって有意義なテーマを選定し、教育改善に活用していく。□

(2) 授業評価アンケート及びそれに基づく各教員のリフレクション(内省)の実施□

「授業方法の工夫」「学生への配慮」「学生授業アンケートの対応」の観点から 授業評価アンケート

授業評価アンケートを中間期と期末に実施し、その結果を参考にしながら各教員が自己評価して授業改善点を明確にして、改善に努めている。□

さらに所属長も交えて結果を有効活用するよう評価の低い教員に対して授業改善を促しを行い課題解決のための取り組みを促進させている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

令和6年度実施時期

・前期授業対象(中間)のアンケート入力期間：令和6年5月～6月

・前期授業対象(期末)のアンケート入力期間：令和6年7月

・後期授業対象(中間)のアンケート入力期間：令和6年11月

・後期授業対象(期末)のアンケート入力期間：令和6年12月～令和7年2月

b 教員や学生への公開状況、方法等

○教員への公開

・担当科目についてポータルサイトにより常時公開している。

○学生への公開

・公開期間を決めポータルサイトにおいて公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本薬学部は、超高齢社会や地域保健医療に貢献し、臨床現場で主体的に活躍できる、高い倫理観と専門性並びに国際感覚を持つ薬剤師を育成することを教育目的として、ディプロマ・ポリシーを設定した。これを実現するため、カリキュラム・ポリシーを設定し、これに基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本として、本学が保健科学部（臨床検査学科、放射線技術学科）並びに看護学部看護学科を有している特徴を活かし、他学科との充実した地域・チーム医療教育を展開する教育内容としている。更に、科目相互の複合的理解を深める一環した教育体系、高い倫理観及び豊かな人間性を涵養し、自主性やコミュニケーション能力を育む教育体系、国際性を養う教育体系、充実した卒業研究体制を組み込んだ教育内容とし、設置計画通りの教育活動を進めている。

また、本薬学部の教育目的及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを実現するため、薬学教育における専門分野を考慮して、各教育・研究分野に1～3名の教員を配置、臨床薬学分野については7名の実務家教員を配置した。この内、令和3年4月就任予定の教授が一身上の都合により令和3年10月の就任、講師が米国での研究継続を理由に令和4年4月の就任となったが、他の教員は、計画通り就任して教育活動を行った。なお、就任が延期となった教員の担当科目の内、令和3年度開講の1科目については、令和2年9月のAC教員審査で承認を受けた教員（教授）が担当した。その他の科目は全て就任時期以降の開講科目であることから、教育活動の上で全く問題はない。実務実習体制についても、計画通り臨床薬学教育センターを設置・運営して、実習運営や教育強化を担っている。更に、全学的な実習調整が行えるよう、「臨地（臨床）実習委員会」を平成30年度より設置し各学科教員及び事務職員から委員を選任し活動していて、令和2年4月より本薬学部の教員もこれに加わっていたが、当該委員会が令和5年3月31日で廃止となった。薬学部の実務実習に関しては新たに「薬学部実務実習委員会」を令和5年4月1日に設置し、定期的に開催し活動している。

5 教員組織の状況 (4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」のところで記載したが、令和7年3月末に2名の教員が退職したが、令和7年4月より後任1名が着任し、もう一名も本人が担当していた科目を非常勤講師として教えており、教育は問題なく遂行できている。

施設・設備面についても、設置計画通りに整備して運用している。

このように全て問題なく教員配置、教育計画、施設設備計画等を遂行していて、設置の趣旨・目的については十分に達成している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成30年度報告書：公表済
- ・令和元年度報告書：公表済
- ・令和元年度外部評価報告書：公表済
- ・令和2年度報告書：公表済
- ・令和3年度報告書：公表済
- ・令和4年度報告書：公表済
- ・令和5年度報告書：公表済
- ・令和6年度外部評価報告書：評価機関からの結果が発表後、公表予定。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・平成30年10月に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受審し適合の判定を受けた。
- 令和7年度に同機関にて、認証評価を受審を予定している。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

岐阜医療科学大学 FD・SD センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岐阜医療科学大学(以下本学という。)組織運営規程第8条第4項に規定する本学FD・SDセンター(以下「FD・SDセンター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(FD・SDセンターの目的)

第2条 FD・SDセンターは、ファカルティ・ディベロップメント(本学における教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)及びスタッフ・ディベロップメント(本学における教育・研究活動へのサービスの質的向上と大学運営の活性化を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「SD」という。)の推進を目的とする。

(立案、審議及び運営)

第3条 FD・SDセンターは、次の各号に掲げる事項を立案・審議し、かつ業務を運営する。

- 一 授業の内容及び方法の改善を図る方策に関する事項
- 二 学生による授業評価アンケート等の実施、結果の分析及び調査項目・方法の改善に関する事項
- 三 本学の教職員人材育成方針に掲げる「求める人材像」育成のための研修等の企画・実施に関する事項
- 四 FD・SDの啓発活動に関する事項
- 五 その他FD・SD活動推進に関する事項

2 前項に定める審議の結果、重要事項であると判断するものについては、教授会に諮るものとする。

(組織)

第4条 FD・SDセンターは、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- | | | |
|---|--------|-----|
| 一 | センター長 | 1名 |
| 二 | 副センター長 | 1名 |
| 三 | 教員 | 若干名 |
| 四 | 事務職員 | 若干名 |

(選任)

第5条 FD・SDセンター長、副センター長及びセンター員は、教授会の議を経て学長が任命する。

(任期)

第6条 FD・SDセンター長、副センター長及びセンター委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 センター委員に欠員が生じたときは、補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(FD・SDセンター会議)

第7条 FD・SDセンターの目的を達成するため、FD・SDセンター会議(以下「会議」という。)を置く。

- 2 センター長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 会議は、センター委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 4 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は、センター長の決するところによる。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、FD・SDセンターの審議に基づき教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。